

「障害のある人の安心と幸せのために」生活サポートファイル記入のおすすめ

(一社) 栃木県手をつなぐ育成会 会長 小島幸子

いつも栃木県手をつなぐ育成会を応援いただきありがとうございます。

このホームページの「育成会の活動について」のところで「生活サポートファイル」がダウンロード出来ます。これは、お子さんが生まれた時から出来事の記録をするノートで栃木県の育成会の生活部会作成です。県内各地の育成会や特別支援学校に出向き、書き方の出前講座を行っているところです。

親は、いつまでも子どもといられるわけではなく、親の次に子どもを支えてくれるのは、個人ではなくて昼間や夜間の暮らしをサポートする多くの職員や相談支援専門員、看護師、かかりつけ医など支援者のチームだと考えています。その支援者チームに親の記憶が確かなうちに、子どものことを伝えていきたいと思っています。

私は、生活サポートファイルへの記入に加えて、障害のある長男が生まれてからを「ぼくは、こんな人。ライフストーリーワーク」という形で息子の自己紹介風にまとめて、パワーポイントで保存しています。

未熟児で生まれたのですが、未熟児室の看護師に抱っこされた写真を貼って、私は「早く産んでしまっでごめんなさいという気持ちだった」とコメントを書いています。次に保育園時代「いつも先生と一緒に」と長男と先生の楽しそうな写真を貼って、私は「いつもすみません、すみませんの毎日でした」とコメントしています。その後、特別支援学校時代には入学式の親子写真を貼って「先生方の力がなくては、この大変な子育ては出来なかった」と書きました。そして現在の生活介護事業所と続き「親も子もそれなりに楽しい毎日です」と綴り、これからも記録は上書き保存されていきます。

子育てをふりかえると誰にでもいろいろな思いがありますが、嬉しかったことも悲しかったことも写真と一緒に短いコメントで記録してあると支援者にも本人と家族の歴史がわかりやすく伝わるのではないのでしょうか？親なき後も本人が安心して幸せに暮らせることを願いつつ、まず生活サポートファイルをダウンロードして印刷して書けるところから記入してみませんか？